ふとりさかへては、人糞は云に及ばず、新しくけがらはしき糞を用ゆれば、さきまがりて花房とならぬ物なり鷄の糞又は糟鰯にても、苗のちいさき時に多く用ひて、中うちさい〳〵して芸り培ひ、うすからず、厚からず、よき程に間引立て、四五月朝いまだ日の出ざるに、花よくひらきて、わきにたるゝを見てつむべし、ひらきてもいまだ色黄にして、わきにたれざるはつむべからず、摘取てはざつときざみ臼にてつき、清水に漬てやがて取上ゑぼり、何にてもきれいなる物にひろげ、草の葉をおほひ、日風も當らざる所に二三日もをき、少色付、白かびの出るを見て、餅に造り日に干べし、又出羽の最上にて花を作る法あり、異なる事なし、是はつみ取て清水に漬やがて取上てしぼり、筵に攤げ物をおほひをきて、少ねたる時、餅には造らず、其まゝ亂れ花にして、干上げ箱に入をくなり、苗の時間引て、ゆがき菜にし、食するに其性よく、味もよし、市町近き所にては、園菜とし、少厚く作りて、段々間引取て賣ても、利なき物にあらず、又實を多く收め置て、燈油に用ひ、勝れて光もよく、油多き物なり、又紅花は苗より念を入、いか程心を盡しても、卒爾に糞を用ゆれば、忽ち先曲りくせ付物なれば、下地をなる程よくこしらへ、糞を多くうち、さらし置、蒔時鷄糞など、其外よく枯たる糞を灰に合せ、下にしきて蒔べし、後は草かじめ中うち培ひ間引立て置べし、土地に相應し、肥地に多く作りては、勝れて厚利を見る物なり、地心を能ゑらぶべし、又子を牛に飼たるもよし、

〔草木六部耕種法十需花〕草花ノ染料ト爲スベキ者ハ、紅花ノ用ヨリ大ナルハ無シ、〇中略凡ソ一段ノ畠ニ種子六七升ヅヽ蒔テ、上ニ土ヲ覆フニ及バズ、但シ芽ノ出ザル間ハ、小鳥ヲモ逐ベク、時々盛養水ヲ灑ニ宜シ、既ニ芽ヲ生ジテ後ハ、糞尿等不淨ナル肥養ヲ用ルコト勿レ、唯其他草ヲ除キ、干鰯ノ粉、或ハ火酒ヲ餾タル籾糠交粕等ヲ、根傍五六寸隔テ置キ、土ト耙錯ベシ、其苗頗ル長ジテハ適宜ニ間引テ、蔬菜ト爲スベシ、美味ナル者ナリ、四五月ニ至リ、黄色ナル花開テ朝露ヲ帶タルヲ